BT FIELD

2024 Summer No.3

ゼロカーボンをお客さまと共に

エネルギーマネジメント部をはじめとする本店と事業所がコミュニケーションを重ね、サステナブルな「最適解」を探ります

BT Front Line

ゼロカーボンをお客さまと共に

ファシリティマネジメントの強みを生かして エネルギーマネジメントで真のパートナーに

企業経営における環境への取り組みがますます重視される中、
「エネルギーマネジメント」でお客さまに貢献することが、ビルテックの大きな使命です。
豊富な専門知識・ノウハウはもちろんのこと、
「建物・設備の維持管理を通してお客さまに寄り添う私たちだからできること」を日々追求する、
ビルテックのエネルギーマネジメント事業をご紹介します。

三つの柱でトータルサポート

私たちビルテックが目指すのは、お客さまに最大の貢献をする総合施設管理事業・エネルギーマネジメント事業のリーディングカンパニー。JR東日本グループの駅や駅ビルなどの維持管理を担う中で、省エネによるランニングコスト削減を実現し、お客さまへの貢献を果たしています。

またJR東日本グループの「ゼロカーボン・チャレンジ2050」の取り組みをサポートすることで、グループ全体のブランド・価値の向上に貢献するとともに、グループを代表してエネルギーマネジメントの多様なノウハウを蓄積し、最大限活用する役割も担っています。

当社エネルギーマネジメント事業は三つの柱で構成されています。

一つ目は「省エネコンサル」です。取り組みやすい運用改善・設備改修をご提案する「省エネ簡易診断」、さらに踏み込んだ運用改善を行う「エコチューニング」、環境に合わせた効率の良い設備改修を実施する「設備改修サポート」といったサービスメニューをご提供。新規しゅん功物件の早期省エネ提案や、設備老朽取り替え時に大きな省エネ効果を狙う提案など、多くの実績を上げています。

二つ目は「環境法令サポート」。省エネ法や自治体条例に基づく書類作成、環境認証取得を支援します。

ビルテックの省エネコンサル

お客さま、事業所と共にPDCAサイクルを回して成果につなげます。時には再エネ証書の活用など、さらなるご提案を行うこともあります。

※別途計測機器を設置して詳細データを収集し、さらに踏み込んだ改善提案（エコチューニング）を行うことも

※設備更新のタイミングに技術全般をサポートする「設備改修サポート」も可能

三つ目は2022年度よりスタートした「カーボンニュートラルサポート」。ゼロカーボンへのロードマップの策定からカーボンオフセットまでサポートします。三つの柱で、お客さまの「SDGs」「ゼロカーボン」に向けたサービスをトータルで実現しています。

維持管理を担うからこそ、寄り添って

「当社エネルギーマネジメントのモットーは『我慢をさせない省エネ』です」

こう語るのは本店ファシリティマネジメント変革本部エネルギーマネジメント部マーケティンググループ・迫田紀生次長。我慢をさせないとはご利用者に快適で環境にも優しいバランスを追求すること。それを支えるのは、お客さま最前線で日々の維持管理を担う事業所、本店ビル事業本部との密な連携です。建物・設備のご利用者の快適空間をしっかりと把握し、ビルオーナーの意向も踏まえた上で、きめ細かく、継続可能な省エネプランをご提案。オーナーとも小まめに意思疎通を図りながら、スピーディーな改善にもつなげます。

こうした強みを生かして大きな省エネ成果を上げている、株式会社千葉ステーションビルさまの事例をご紹介します。

千葉県内で「ペリエ」をはじめとする商業施設等を運営する千葉ステーションビルさまとは、維持管理を通じてお付き合いがあり、以前より当社の「環境法令サポート」をご利用でした。お客さまの課題は、運営施設のエネルギー使用量全体の約70%を占める千葉駅ビル「ペリエ千葉」の省エネ対策。2017年の全面建て替えリニューアルに当たっては、設計段階からご相談を頂き、2018年度より「省エネコンサル」をご利用いただくことになりました。

当社からご提案した代表的なプランは次の通りです。

- 水熱源ヒートポンプユニット（PMAC）の運用を最適化（運転時間変更、各系統への遮断弁のスケジュール運用、熱源水ポンプの送水圧力設定・運転台数の変更）
- 外気処理空調機の給気風量を最適化（インバーター周波数の設定変更）
- 冷温水発生機の運用を最適化（運転台数・起動時間の変更） など

❶

❷

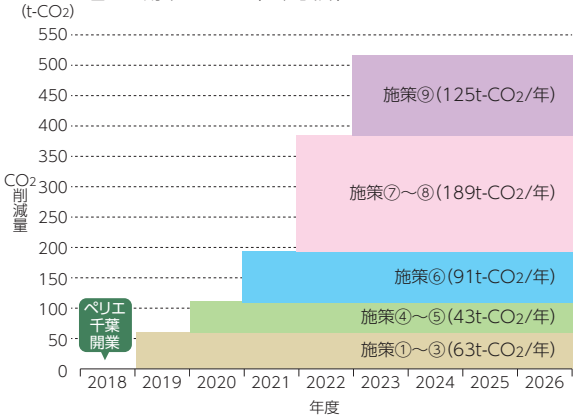
❹

❺

❻

千葉ステーションビル　省エネ効果イメージ(当社試算)

施策	実施内容
①	空調運転時間変更
②	換気ファン運転時間変更
③	外調機インバーター周波数変更1
④	熱源設備運転時間変更
⑤	熱源設備運転台数変更
⑥	空調系統遮断弁運用改善
⑦	ポンプ送水圧力変更
⑧	ポンプ運転台数変更
⑨	外調機インバーター周波数変更2



❸

❶❷千葉駅ビル「ペリエ千葉」 ❸千葉ステーションビルさま　省エネ効果イメージ(当社試算) ❹ファシリティマネジメント変革本部　エネルギーマネジメント部　馬越部長 ❺ファシリティマネジメント変革本部　エネルギーマネジメント部　マーケティンググループ　迫田次長 ❻ファシリティマネジメント変革本部　エネルギーマネジメント部　コミッショニンググループ　笠井さん

あわせて、「省エネ実施項目の承認はオーナー」「省エネ提案・効果検証はエネルギーマネジメント部」「省エネ実施・効果維持・トライアル&チャレンジはビルテック千葉駅ビル事業所および協力会社」といった役割分担やルール作り、推進体制も構築。管理表を共有し、定期ミーティングを行うなど、密なコミュケーションを図りながら、三位一体となって取り組みました。

電力削減104万8789kWh/年、ガス削減1万2600㎥/年、エネルギー原油換算合計280.2kL/年削減、CO_2換算合計511t-CO_2/年削減の見込みとなっています。

現場と専門家、二つの目線で取り組みを継続

エネルギーマネジメント部コミッショニンググループ・笠井佳祐さんは語ります。

「提案時に心がけているのは、各施策の目的、成果の試算などを明確に示し、関わる全ての人のモチベーションを高めること。その結果として積み重ねられた実績が、当社への信頼につながると考えています」

当社は経営ビジョンで「2027年度、全社2万tのCO_2削減」を掲げていますが、2023年度時点で既に1万5000tの削減を達成。さらなる高みを目指しています。

「最も重要なのは“継続”です。担当者が交代しても運用管理が滞ることなく、成果を維持できるよう、専門部隊の事業所訪問で実施を後押しする『省エネキャラバン』や、研修施設『FMTEC』での専門研修をさらに強化。ビルテック全体のレベルアップに努めていきます」と、エネルギーマネジメント部・馬越清徳部長は力を込めます。

＊

「施設の快適性」と「エネルギーの最適化」――この両立を可能にするため、事業所はお客さまとご利用者の目線で、エネルギーマネジメント部は省エネの専門家の目線で、今日も議論を重ね、共に汗をかきます。

2024年4月の組織改正で、エネルギーマネジメント部は新たに発足した「ファシリティマネジメント変革本部」の傘下に。今までよりスピード感をもってエネルギーマネジメントを行います。駅建物の省エネサポートもスタートしました。今後は大規模な駅周辺の開発も続きます。

「エネルギーのことなら、ビルテックに相談だね」

JR東日本グループの皆さまにそう言っていただける存在を目指して、私たちはこれからも走り続けます。

環境法令サポート

JR東日本グループ全体のコンプライアンスを支えます

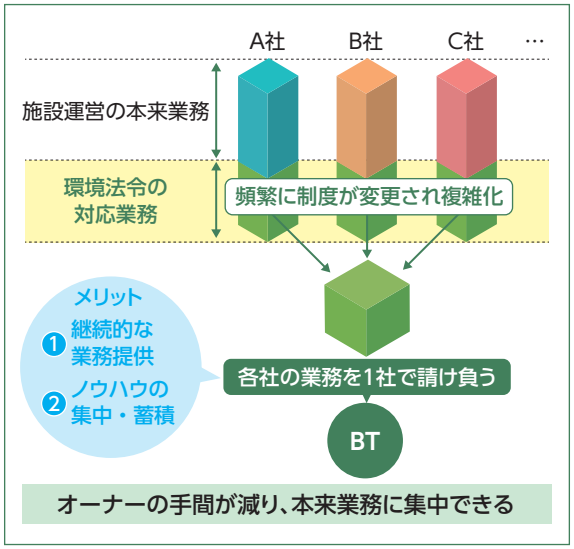
環境に対する社会的関心がますます高まる今、環境法令の順守は企業としての経営の要です。

企業には省エネ法や各自治体条例に基づく報告書、計画書などの提出が求められますが、それぞれ形式や項目、データの集計方法などが異なり、改定も頻繁に行われるため、常に確認が必要です。この煩雑な作業を、豊富な経験と実績を持つ当社が支援し、お客さまが効率的に本業に専念できるようサポートします。

◆対応法令／省エネ法、東京都環境確保条例、埼玉県地球環境温暖化対策推進条例、神奈川県（横浜市、川崎市）地球温暖化対策推進条例　など

東京都が、特に省エネの取り組みが優れている事業所を認定する「トップレベル事業所」についても実績があります。認定条件のハードルが高く、取得後も継続的な取り組みが必要となるため、当社で培ったノウハウを大いに活用しています。

■ 当社の目指すところ



カーボンニュートラルサポート

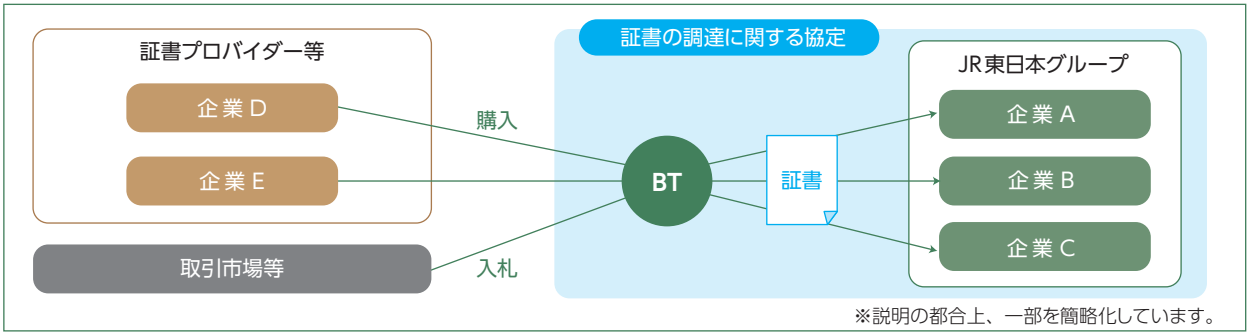
ゼロカーボン達成をサポートし、企業価値向上に貢献します

JR東日本グループは、2030年度のCO_2排出量50%削減（2013年度比）、2050年度のCO_2排出量を実質ゼロにすることを目標としています。私たちは、お客さまの建物で使用されるエネルギー量を把握し、カーボンニュートラルの達成に向けたロードマップをお客さまと共に策定します。

ただ、徹底した省エネの実施や、太陽光発電設備等の再生可能エネルギーの導入をもってしても、目標に届かない場合もあります。

そこで当社では、JR東日本グループを代表して再生可能エネルギー発電由来の「環境価値」の仲介をスタート。再エネ証書を市場などから調達し、お客さまに提供しています。お客さまは取得された再エネ証書の「環境価値」により、施設で使用した電力量分のCO_2排出量をオフセットすることができます。

■再エネ証書の調達スキーム



※説明の都合上、一部を簡略化しています。

NTTファシリティーズさま×ファシリティマネジメント変革本部

データ×技術で FMの未来を切り拓く

お客さまの期待を「超えた」ビルテックとなるために―このコーナーでは、社外との対話を通して当社の進むべき道を探ります。今回は、2024年4月に発足したファシリティマネジメント変革本部の部長二人が株式会社NTTファシリティーズさまを訪問。これからのファシリティマネジメントはどうあるべきか、意見交換させていただきました。

CROSS TALK

（左から）

株式会社NTTファシリティーズ
カスタマーソリューション本部
営業・ソリューション企画部

IoTシステムソリューションPT長※ **後藤 和弘さま**
KAZUHIRO GOTOU

ファシリティサービス統括部門長※ **高原 紘之さま**
HIROYUKI TAKAHARA

JR東日本ビルテック株式会社
ファシリティマネジメント変革本部

スマートFM推進部長 **美馬 正英**
MASAHIDE MIMA

技術変革部長 **坂本 圭司**
KIYOSHI SAKAMOTO

※所属はインタビュー時点

より効率的に、もっと高度に
高まるFMサービスへのニーズ

美馬　NTTファシリティーズさまとは共に日本ファシリティマネジメント協会（JFMA）会員というご縁もある中、このような機会を実現することができ、感謝申し上げます。「FMの未来を切り拓く」というテーマですが、まずFM業界を取り巻く環境をどう捉えているか、御社のお考えを聞かせていただけますか。

高原　労働力人口減少・高齢化等を背景に、オーナー側では「今後、施設の管理体制をどう維持していくか」という危機感が高まっています。一方でカーボンニュートラルやウェルビーイングに注力し、自社の価値を高めていこうとする企業も増えています。効率化と品質向上の両方が求められ、ファシリティのライフサイクル全体にサービスを提供する我々にとって大きな課題だと捉えています。

坂本　「FMのスマート化」という点でも、御社はさまざまなメニューをそろえ、一歩先行くFMソリューションを展開されています。弊社が維持管理している「JR新宿ミライナタワー」では、御社とJR東日本が共同で「AI空調制御」の実証実験も行っています。どのように事業変革を進めてこられたのか、ぜひお聞きしたいところです。

後藤　FMの効率化、高度化を目指す上で重要なのは、データの整備・活用です。当社は1992年の営業開始以来、このテーマと向き合ってきました。また、NTTグループの強みである情報通信技術や研究開発の知見も活用し、顧客の課題解決につながるサービスの開発に取り組んでいます。JR新宿ミライナタワーの事例は、まさにその実践ともいえるでしょう。

坂本　論文などを拝見すると、御社はPDCAを回す仕組みを古くから取り入れ、あらゆるFMに活用されています。私たちも、新組織としてここをしっかり取り組みたいと考えています。御社はFMのPDCAを回すポイントをどのようにお考えですか。

高原　ポイントはファシリティ標準の策定、業務プロセスの明確化、業務を支えるシステム・データベースの確立と運用です。企画・設計から工事、維持管理、さらに次の建物へというPDCAサイクルを考えた場合、データのデジタル化と一元管理・活用が重要です。当社はこれらのデータを活用した「データドリブンFM」に取り組んでいます。

坂本　当社も発足以来、駅・駅ビルを中心とした建物・

FMには今、効率化と品質向上の同時実現が求められています
（高原部門長）

設備の維持管理会社として利用されるお客さまの安全確保、列車運行の確保を第一に取り組んできました。例えばご利用者の多い駅で二点係留装置を用いてドローンを飛行させるなど、固有の環境で活用できる技術等に磨きをかけています。ここで得られたデータでFMのPDCAサイクルを回していかねばならないと思っています。

お客さまに寄り添うチャレンジが自らも進化させる

美馬　先日は「第18回日本ファシリティマネジメント大賞（JFMA賞）優秀ファシリティマネジメント賞」の受賞、おめでとうございます。受賞されたNTT西日本の新本社ビル「NTT WEST i-CAMPUS」では、完成後もお客さまと一体となって改善を続けているそうですね。

高原　「NTT WEST i-CAMPUS」内のオープンイノベーション施設「QUINTBRIDGE」は年間でグループ内外の約7万人にご利用いただいています。現地には当社サービス部門の社員2人が常駐し、設備の維持管理にとどまらず、「どんな活動をしたいか」といった企画の立案から実行まで、顧客と一緒に考え、進めることで、施設としての付加価値創出につなげています。今回の受賞では、顧客の声をもとに改善を続ける仕組みも評価いただいたものと受け止めています。

後藤　普段から顧客と接点を持って施設管理を行うことで生まれる課題への対応が、時代の一歩先を行く最先端技術の開発や提案につながっています。そのため自社研究開発部のみならず、NTTの基礎研究なども応用しながら、NTTグループと連携したサービス開発にも注力しています。

美馬　目の前のお客さまの声を聞き、周囲を巻き込み、期待を超えたサービス・ソリューションを生み出し続けることは「社員をビジネスで育てる」観点でも好事例ですね。ソリューション開発は、どこから着想されているのでしょうか?

後藤　自社保有技術活用と市場ニーズから生まれる二つのケースがありますが、大切にしているのは顧客の具体的なニーズに応えること。主要案件では他事業部とも連携し、自社の競争力向上につながるかを検討した上で、短期・中期的な視点でテーマ設定します。IoTシステムサービスの着想という観点では、顧客課題の把握や市場ニーズを分析し、自社保有技術だけではなく他社技術も評価して顧客提案していく「マーケットイン型」開発を強化したいと考えています。

積み上げてきたノウハウやデータを基に、当社ならではの価値創出に努めます
（美馬部長）

ITと建築、両方を理解できる人材の育成に力を入れています（後藤PT長）

「経営を支援する」FMの使命を胸に、しっかりとPDCAを回していきたいです（坂本部長）

美馬　私たちも顧客課題伴走型のソリューションづくりに取り組んでいます。現場と連携することで要件定義をスムーズに行える強みを生かし、よりスピーディーかつ安価にニーズ対応できる体制を持続的に整えたいと考えています。サービスの本格的なリリースには、扱うデータや規模に応じてベンダーの協力が必要ですが、内製による価値検証を通じて当社も技術・ノウハウを蓄積することができ、サービス・ソリューションのレベル向上に役立つものと思っています。同時に、内製で対処すべきテーマかどうかの見極めが重要です。選球眼を持つリーダーの育成も、今後の課題と捉えています。

後藤　FM事業におけるICT活用の重要性が高まる中、IT人材の確保・育成の環境整備は不可欠ですね。一方、建築分野の理解も必要で、「建築×IT×ビジネス感」を備えた人材の育成が重要だと、我々も考えています。

お客さまの期待を超える真のパートナーとなるために

美馬　現場と連携して顧客課題を正しく把握しながら、解決のために社内外のデータや技術を活用し、ご期待を超えるサービスを提供していくこと。さらには、それを自社の設備管理サービスの競争力向上、他社との差別化につなげていくこと。未来を切り開くために大切なことは両社とも同じですね。私たちも積み上げてきたデータ・ノウハウを生かし、データ利活用プラットフォーム「F/MaaS®」を基点に、当社ならではの価値創出につなげていきたいです。

高原　グループのFMを担う専門企業として、自らの存在意義を常に問い続けること。これが変革の根底です。我々も、自分たちの取り組みや役割を再確認する良い機会となりました。これを機に情報交換を継続し、FMの未来に向けて共に取り組んでいきたいですね。

後藤　顧客目線でPDCAを回しながら、多施設をいかに安全・効率的に管理していくか。根本のところは両社に共通しています。共感し合える部分も多いと思います。

坂本　対談を通し、経営を支援する役割としてのFMの重要性を再認識しました。御社パーパスでは「ファシリティを輝かせ、安心とときめきに満ちたサステナブルな未来を共創する」とあります。この対談をきっかけに、私たちもますますスピード感をもって変革を進め、ファシリティの輝く未来を切り拓いてまいります。今日は貴重なお時間を頂き、ありがとうございました。

株式会社NTTファシリティーズ

NTTアーバンソリューションズグループのファシリティソリューション企業として、コンサルティングから設計監理や維持管理、さらにシステムサービスを含む広い領域でのファシリティマネジメントやエネルギーマネジメントなどのサービスを展開。

DATA

本　　社：〒108-0023　東京都港区芝浦3-4-1　グランパークタワー
営業開始：1992年
従業員数：7000人（2024年3月31日現在、NTTファシリティーズグループ）
主な事業内容：施設全般に関わるコンサルティング、企画、設計、維持管理など
HP：https://www.ntt-f.co.jp/

ビルテックのチカラ

ビルテックは「ヒト×デジタル」のチカラで、「お客さまに最大の貢献をする総合施設管理事業・エネルギーマネジメント事業のリーディングカンパニー」を目指しています。このコーナーでは、「旬」の技術・サービスをご紹介します。

BCP対策

01

地下水活用で、安全な飲用水を安定供給

地下水膜ろ過システム

当社では、地下水膜ろ過※システムを活用した地下水活用事業を展開しています。地震の影響を受けにくいとされる地下水を、高度なろ過膜処理で安全な飲用水に変え、公共水道と併用することで、駅・関連施設等における水道料金の大幅低減、そして災害時の断水リスク軽減に貢献するものです。

2000年にJR大宮駅で飲用供給を開始して以来、JR東日本管内28カ所で事業を展開。2023年度は、164万t/年の飲用水を供給しました。加えてJR東京総合病院さまの新病棟建て替えでは、BCP対策として新たに本システムを導入いただきました。

平時から活用している飲用水を非常時にも安心してご利用いただけるよう、引き続き地下水活用事業を推進して参ります。

※膜ろ過
側面に無数の超微細孔があるストロー状の細い糸を9000～2万5000本束ねて筒の中に入れた膜モジュールに、圧力をかけた水を通すことでろ過します。水の中に混入している粒子や細菌は超微細孔を通ることができず、食中毒の原因となるO-157やクリプトスポリジウムなどの細菌類・原虫類などを除去できる構造になっています。

宇都宮駅

千葉駅(ペリエ千葉)

本サービス担当

JR事業本部　企画部
企画グループ
青山 瑠衣

FM業務変革

02

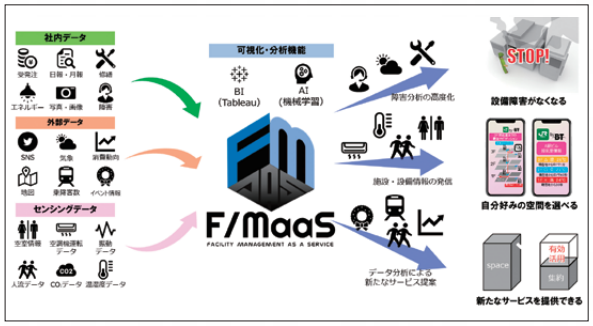
F/MaaS®で新しいサービスを創出

360度画像共有サービス

「F/MaaS®」は当社のデータ利活用プラットフォームです。社内外のさまざまなデータに私たちのアイデアを組み合わせ、自社での業務活用はもちろん、お客さまの業務支援を目的としたサービスの提供も進めています。

管理する建物・設備が多く広範囲に点在する鉄道の維持管理。目的地までの移動時間、いわゆる「足ロス」による業務時間の圧迫にお困りではないでしょうか。当社では「F/MaaS®」と360度画像を活用し、現地確認を写真に置き換えることでこの問題を解決できないか、検証を進めています。操作性に優れたインターフェース、写真の持つ位置情報を使った地図への自動プロット、関連情報のひも付け等、使い勝手を試しながらアジャイル開発しています。

お客さま向けUIの作成にも着手。建物・設備を知り尽くしている当社だからこそのサービスを目指し、開発を進めています。



「F/MaaS®」のサービス提供イメージ図

「360度画像共有サービス」の閲覧画面(イメージ)

本サービス担当

ファシリティマネジメント変革本部
スマートFM推進部　データ利活用グループ
藤田 瑞穂

工　事

03

生活やビジネスを応援

建物・設備の請負工事

当社では、建設部が首都圏の駅ビル・オフィスを中心に、各支店の工事課がJR東日本管内の駅を中心に改修・新築・解体工事を担当しています。今回は建設部の「チカラ」をご紹介します。

駅ビル・オフィスでは、営業を続けながら、または営業停止時間を最小限に抑えて施工すること、また、ビルのブランドを保ち、限られた期間で高品質の工事を納めることが重要です。このために建設部の経験豊富な現場代理人と電気・設備・積算の専門社員、ビル管理部門がチームとなって取り組み組むことが特徴です。

もう一つの特徴は「積算」と「営業」が一つになったセクションがあること。大規模改修工事などでは、現場を知り尽くしたビル管理部門と施工管理部門との情報を調整し、お客さまのご要望をくみ取り、ベストなご提案につなげています。

受注後は施工管理部門にバトンを渡し、しゅん功後はビル管理部門にバトンをつなぎ、「建物・設備の一生」に関わる請負工事の担い手として、今後もBTワンチームで取り組みます。

現場を熟知した担当者が工事品質をマネジメント

大規模工事の競争入札等では、積算担当者と現場担当者が密に連携

本サービス担当

建設部　積算グループ
大野 玲

カスタマーサービス

04

24時間365日　障害を受付

カスタマーセンター

当社は建物・設備の障害などを未然に防ぐため、予防保全に力を入れていますが、あわせて緊急時にはカスタマーセンターが24時間体制でサポート。ダウンタイムを最小限に抑えています。

これまで培ったノウハウを駆使することで、受付時のやり取りだけで解決できてしまうことも。また、受け付けた障害などからもノウハウを蓄積し、メンバーで共有。研修などでスキルを高めています。

ご連絡いただく手段は電話受付とweb受付の両方をご用意していますが、特にweb受付の場合、ご依頼者も「維持管理クラウド」システムを通じて進捗状況をご確認いただくことができます（一部建物を除く）。リアルタイムに現状が把握できるため、ご依頼部署での情報共有もスムーズです。

緊急対応した障害事案は各専門チームとクラウド上で共有し、「応急的処置」から「恒久的処置」へ。障害の分析から、次の予防保全につなげ、24時間365日、安全・安心な駅・駅ビルの空間を支えます。

web受付では、お客さまとも情報共有しながら迅速に対応

研修会でノウハウを共有

本サービス担当

JR事業本部　企画部
カスタマーセンター
須田 明伸

イベント

#FM 業務変革

スタートアップ企業とのマッチングイベント「STARTUP PITCH」に登壇

3月14日、JR東日本グループとスタートアップ企業をつなぐ「STARTUP PITCH※＃8」が開催され、当社社員がスピーカーとして登壇しました。

テーマは「鉄道建築メンテナンス」。JR東日本設備部門建築ユニットさまと共に、JR事業本部JR事業部第一グループ・髙橋健一さんが、鉄道建築における「課題」や「求める技術・アイデア」について説明しました。

イベントには過去最高となる305人が登録。応募を頂いた中から16社との面談を行い、多くの事業提案を頂きました。

名乗りを上げてくださった会社の皆さまと共に、今後も「鉄道建築メンテナンスの業務革新」実現に向けて、果敢にチャレンジをし続けます。

※STARTUP PITCH
JR東日本グループ会社が持つ課題と、優れたアイデアや先端技術を持つスタートアップ企業とのマッチングを推進する、JR東日本スタートアップ株式会社さま主催のオンラインイベント。

参加者の関心は高く、突っ込んだ質問や提案も数多く寄せられました（右は髙橋さん。右から2人目は当社より出向中の田中さん）

検査の未来像と現状の課題、求める技術を説明している髙橋さん

◆5つの「求める技術・アイデア」

検　査：効率化・レベルアップにつながる技術
配　管：劣化状況を簡単に把握できる技術
詰まり：予兆検知・自動詰まり除去技術
隠蔽部：躯体を透過して配管状況が分かり、一元管理する技術
安　全：不安全行動等の検知技術

イベント

#DX

「第3回ビルテックRPAフォーラム」 業務変革を見据え、学び合いでさらなるRPA化を

5月21日、当社本店会議室で「第3回ビルテックRPAフォーラム」を開催しました。

当社は2020年度に推進チームを発足し、全社でRPA化推進に取り組んでいます。これまでの稼働案件は221件、削減時間は2万2381時間/年となり、2022年7月には、BluePrism株式会社さまの「Japan Customer Circle of Excellence2022 Business Value Driver Award」も受賞しました。

本フォーラムは、各職場のさらなるRPA化推進を後押しすることが狙いです。3度目の開催となる今回は、初めてJR東日本さまから来賓をお迎えしました。

◆パネル展示会

ポスターセッション形式で9職場が取り組みを紹介

◆特別講演「RPA市場現状と最新動向」

講師はBlue Prism株式会社 ソリューションコンサルティング本部 小林伸睦本部長

◆事例発表

2023年度、新たに稼働した6件の事例を報告

◆RPAアワード2023

2023年度のRPA推進に大きく貢献した職場・個人を表彰

安全計画

＃安全

「ビルテック安全計画2028」がスタート

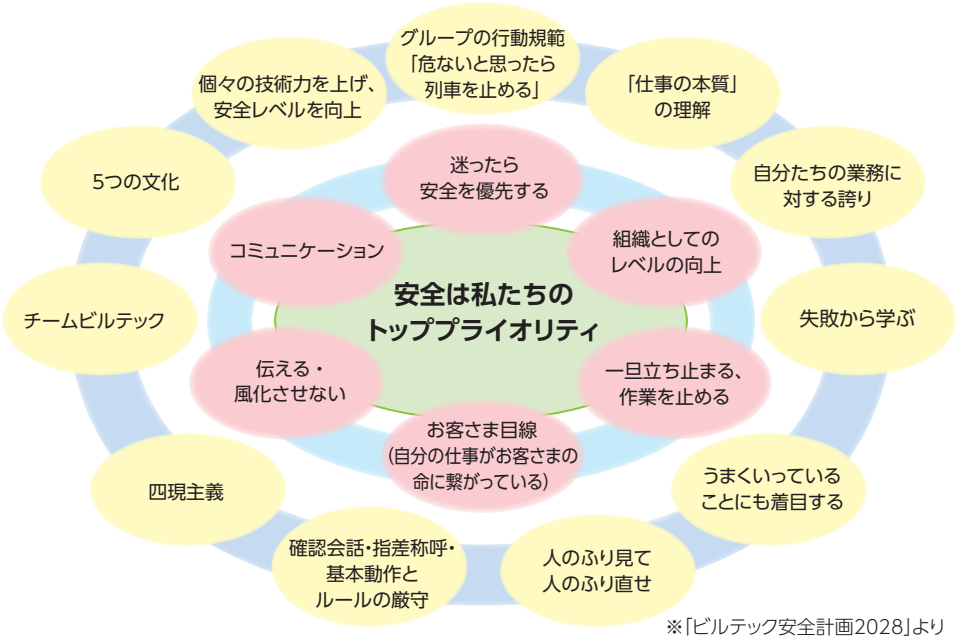
当社は2024年度から、新たに「ビルテック安全計画2028“0”から安全をつくり上げる」をスタートさせました。社員・協力会社の一人ひとりが「ビルテック安全計画2028」の主役。一人ひとりが主体的に力を発揮し、過去を踏まえ、想像力を拡げ、信頼されるビルテックの安全を実現します。

文化 つくり上げる安全文化

私たちは自らの誇りと気概を持って、自分たちの安全文化をつくり上げ、お客さまの真のパートナーとなれるよう、全社員が一丸となって取り組みます。

行動 安全を実現する具体的な行動

「安全は私たちのトッププライオリティ」それは、私たちのつくり上げる安全文化の原点です。今一度その原点に立ち返り、「迷ったら安全最優先」「お客さま目線」「コミュニケーション」「組織としてのレベル向上」「伝える・風化させない」「一旦立ち止まる、作業を止める」などの文化を常に考え、議論し、すべての行動に結び付けていきます。



※「ビルテック安全計画2028」より

イベント

＃安全

「2024安全衛生フォーラム」“0”から安全をつくり上げ、信頼されるビルテックへ

6月12日、池袋・ホテルメトロポリタンにて当社およびJR東日本ビルテック株式会社安全衛生協力会と共催で「2024安全衛生フォーラム」を開催しました。

2月に発生した横浜線中山駅での墜落事故を受け、当社は今年度スタートの「ビルテック安全計画2028」で「“0”から安全をつくり上げる」をテーマに掲げ、安全レベルの向上に取り組んでいます。今回のフォーラムでは、関係者からの報告を通して今回の事故を見つめ直すとともに、「うまくいっている」取り組みにも着目しました。また、特別講演ではJR東日本安全企画部門・池田さまより「グループ安全計画2028」についてお話しいただきました。

墜落事故を絶対に起こしてはならない――本フォーラムでの誓いを忘れず、安全文化の醸成、安全の実現に向けて、チームビルテックでたゆまぬ努力を続けます。

安全衛生協力会本部・金城正実会計監事のご発声で「ゼロ災コール」

阿部社長（左）、安全衛生協力会本部・小澤修一会長のオープニングスピーチ

ご来賓の渋谷労働基準監督署・石嶋秀樹副署長よりご挨拶

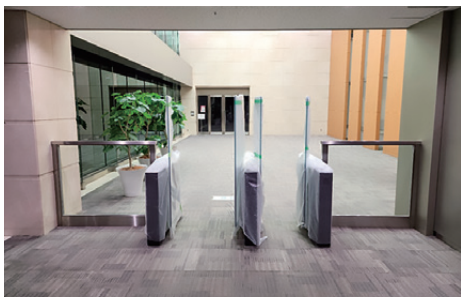
東日本旅客鉄道株式会社安全企画部門・池田聡司マネージャーの特別講演

受注・しゅん功のご紹介

BT FIELD Gallery

Renewal JR品川イーストビル　フラッパーゲート等設置に伴う付帯工事

- 場所：東京都港区
- 担当：建設部



Completion 盛岡車両センター青森派出
洗浄仕業庫撤去他工事

- 場所：青森県青森市
- 担当：盛岡支店

before

Renewal 宇都宮新幹線保線技術センター
事務所間内改良工事

- 場所：栃木県宇都宮市
- 担当：大宮支店

Renewal 新潟新幹線車両センター
電車庫1号屋根一部改良

- 場所：新潟県新潟市
- 担当：新潟支店

before　after

Orders CoCoLo新潟
維持管理業務　受託拡大

- 場所：新潟県新潟市
- 担当：新潟支店　駅ビル CoCoLo 新潟事業所

Renewal 住宅リフォーム工事
外装リニューアル

- 場所：東京都杉並区
- 担当：住宅部

before

お客さまこだわりの装飾門扉にご注目

Orders JR東京総合病院
維持管理業務　受託拡大(e棟)

- 場所：東京都渋谷区
- 担当：東京支店　東病事業センター

We're TEAM BT
We're チームビルテック

＼皆さん、いつもありがとうございます／

ビルテックにとって「なくてはならない」協力会社の皆さんをご紹介!

No.05 JR東日本メカトロニクス株式会社

JREM横浜支店では、JR東日本横浜支社管内にある駅および機器室など、オンレールエリアの空調設備や小荷物昇降機のメンテナンス・修繕工事・故障対応を行っています。

予防保全に向け定期的な検修作業を実施し、設備の安定稼働に努めています。また「故障対応アプリ」を作成し、支店および協力会社で事象を共有。適切な対応につなげています。

「機器室等の重要設備の一端を担っている」という自覚を持ち、チームビルテックで協力しながら全てのお客さまが安心できる機械設備を提供します。

JR東日本メカトロニクス株式会社（JREM）
本社：東京都渋谷区代々木二丁目1番1号　新宿マインズタワー
設立：1992年
従業員数：1392人（2024年4月現在）

No.06 新安全警備保障株式会社

JR取手駅隣接の「アトレ取手」で、5人がアトレ取手警備隊として施設警備業務を行っています。

日々の業務は出入管理業務をはじめ、館内の開閉店作業や館内巡回、緊急事案対応、拾得物等の対応が中心となります。今、力を入れているのは「事案発生時の対応」です。事案発生時、隊員一人ひとりの状況判断が必要になるため、他店や過去の発生事案等を参考に、いろいろな場面を想定しながら、日々の業務や警備隊での訓練に励んでいます。

来館してくださるたくさんのお客さま、クルーの方々に、安心してお買い物やお仕事をしていただけるよう、誠心誠意がんばって館を守っていきます。

新安全警備保障株式会社
本社：茨城県水戸市吉沢町357-1
設立：1992年
従業員数：480人（2024年5月現在）

contents

02…BT Front Line
ゼロカーボンをお客さまと共に
ファシリティマネジメントの強みを生かして
エネルギーマネジメントで真のパートナーに
06…CROSS TALK
データ×技術でFMの未来を切り拓く
（NTTファシリティーズさま×ファシリティマネジメント変革本部）
10…ビルテックのチカラ
12…News & Topics
14…BT FIELD Gallery
15…We're チームビルテック

※本誌記載の所属は、すべて実施時のものです。

エコレールマーク
※この印刷物は環境にやさしい貨物鉄道を使って輸送をしている北越コーポレーション㈱の洋紙を使用しています。
VOC FREE
FSC ミックス 紙 FSC® C003343

Editor's Note 編集後記

今年度最初の『BT FIELD』夏号をお読みいただきありがとうございます。

早いもので、今号で創刊から1年を迎えることができました。この1年間、皆さまの温かい支援とご理解によって、私たちの広報誌は成長し続けることができました。この広報誌が単なる情報発信の場ではなく、皆さまに寄り添い、共に未来を切り拓く真のパートナーとしての存在となれるよう、今後もさらに内容を充実させてまいりますので、今後ともご愛読いただければ幸いです。

また、この場を借りて取材にご協力いただきました皆さまに心より御礼申し上げます。

（え）

〈表紙写真〉本店ファシリティマネジメント変革本部エネルギーマネジメント部の専門部隊が事業所を訪問する「省エネキャラバン」。丁寧なコミュニケーションで、現場の省エネ実施をサポート。

JR東日本ビルテック株式会社　広報誌
『BT FIELD』2024年夏号(通巻3号)
2024年7月1日発行

〔発　　行〕 JR東日本ビルテック株式会社
〒151-0053　東京都渋谷区代々木2-2-2
JR東日本本社ビル8階
http://www.jrefm.co.jp/

〔発 行 人〕 阿部 亮

〔編 集 人〕 丸山 信博

〔編　　集〕 経営企画部
笹澤 正善・佐藤 敏彦・渡辺 淳子・西田 えり・鈴木 祐美

〔編集協力〕 ウィズワークス株式会社

〔本誌に関するお問い合わせ〕
JR東日本ビルテック株式会社　経営企画部
コーポレート・コミュニケーショングループ
CorpCommun@jrefm.co.jp

©JR東日本ビルテック株式会社
本誌記載の記事・写真の無断転載・複写を禁じます。